



かつては約9mの高さがあったと伝えられる小野平の滝。
現在は長い年月による地形変化などから約6mとなっています。

また、「稲子滝由来」には「滝の石面に不動明王の尊像を彫刻し侍りぬ」と記されていますが、

霊験を求める人たちが訪れたと考えられます。

また、「稲子滝」は「滝の石面に不動明王の尊像を彫刻し侍りぬ」と記されていますが、

安濃川に架かる安西橋を渡り、芸濃町小野平の集落を過ぎると「小野平の滝」の案内板があります。安濃川の支流である滝川に沿って上流へ進み「500m先小野平滝」と書かれた指示板から延びる道を川へ下り、河原を大きな石伝いに進むと、「小野平の滝」が現れます。

小野平の滝は古くは別名「稲子滝」と呼ばれていました。かつて小野平の集落の北には、スサノオノミコトと稲田姫を祭る社があり、その神社で行われる祭礼

には、小野平の滝の水を用いていたといわれています。ある時、きこりの子どもがこの滝つぼで水浴びをしたところ、以前より患っていた眼病が治ったことから、神社に祭られる稲田姫の「稲」と眼病が治癒した子どもの「子」にちなんで、この滝を「稲子滝」と呼ぶようになったといわれています。これらは「稲子滝由来」に記され、現在に伝えられています。

小野平から通じる滝までの道のりには「たきへ」と刻まれた道標がいくつかあります。この道標のうち、小野平の集落近くにあるものには正面に「左ながのミチ 右たき道」、側面に「寛政五丑（1793）年六月吉日」と記され、古くから先のいわれに由来する霊験を求める人たちが訪れたと考えられます。



滝の傍らに立つ不動明王

現在はこの滝の傍らに石造の不動明王立像が祭られています。
（「広報津」平成23年7月1日号）